

平成17年度 第1回宇都宮市社会福祉審議会 高齢者福祉専門分科会 議事録

日 時：平成17年6月30日(木)
午前10時00分～

場 所：宇都宮市役所 14D会議室

出席者：

【社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会委員】

大森健一委員(獨協医科大学名誉教授)，福田久美子委員(宇都宮市議会議員)，
藤井清委員(社会福祉協議会会長)，瀬尾充男委員(宇都宮市民生委員・児童委員協議会会長)，
高橋秀春委員(栃木県老人福祉施設協議会県央部会)，高橋邦生委員(宇都宮市医師会理事)，崎
谷秀一委員(宇都宮市歯科医師会理事)，松本カネ子委員(宇都宮ボランティア協会会長)，渡邊
暎子委員(日本看護連盟栃木県支部支部長)

(欠 席) 佐藤六夫委員(宇都宮市老人クラブ連合会会長)

【事務局】

【健康増進課】土屋健康増進課長，松岡健康増進課長補佐，

【高齢福祉課】福田高齢福祉課長，高橋高齢福祉課介護保険担当主幹，田尻高齢福祉課長補
佐，小関高齢福祉課企画係長，安納高齢福祉課企画係総括主査，伊澤高齢福
祉課企画係主任主事，佐々木高齢福祉課企画係主事

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 議 事

(1) 「第4次宇都宮市高齢者保健福祉計画」及び「第3期宇都宮市介護保険事業計画
の策定について

- ・介護保険制度改正の概要について
- ・現行計画の取り組み状況について

(事務局説明)

大 森 会 長：資料3の痴呆(認知症)予防対策への取り組みについては，今後何らかの計画
を立てて取り組んでいくという意味合いか。現状及び評価の欄に，早急に確
立する必要があると書いてあるが。

事 務 局：早急に取り組んで参りたい。

福田委員：資料3の「訪問指導の実施」についてであるが、16年度の実績が著しく下がっている理由をわかりやすく説明していただきたい。

事務局：訪問基準が決まっており、健康診査の結果、緊急に精密検査を要する人に対しては、100%訪問指導を実施している。在宅歯科診療の事前調査という形でも訪問を実施している。本市の場合、集団検診及び個別検診の結果、約8割の人が何らかの所見をもっていることから、すべての対象者に訪問を実施するのはかなり難しいと考えている。このため、特に緊急を要し、医療機関での受診を行っていない70歳未満の人に対して訪問を行っている。

福田委員：15年度に比べて16年度の訪問指導の実績があまりに低くなっており、数字を見る限りでは、事業が充実しているのかそれとも手薄になってしまったのかかわからない。機構改革により保健師を地域に配置したようであるが、その結果、保健師が地域で事業をきちんと展開する体制になっているのかどうか伺いたい。

事務局：保健師の地域展開によって、身近に訪問指導を行うための体制は整っている。検診によって受診率の上がったものと下がったものがあるので、関係課とともに検診をより充実させるための検討を行っているところである。

福田委員：全体的に保健師の数は増えているのに、増えたのは窓口に配置される保健師であって、現場に行く保健師ではない。地域に根ざして訪問することでしかフォロー出来ない部分を充実させて欲しい。

それから、「高齢者外出支援の充実」で「制度の周知を図る」とは、何の制度のことを差しているのか。訪問介護については、「安易な利用により心身の低下を招く」とあるが、これはすべての利用者のことを指している訳ではないと思うが、このような高齢者がどれくらいいるか割合はわかるか。

事務局：資料で言う「外出支援事業」については、75歳以上の高齢者を対象に、5,000円相当のバスカードを1,000円の自己負担で購入できる制度を指している。年間で約5,500人ほどの方に利用していただいているが、本市の75歳以上の高齢者は約33,000人いることから、利用率がまだまだ低く制度のPRが不足しているため、一層の周知を図って参りたいと考えている。

もう一点の訪問介護については、利用することにより心身の状態が低下した高齢者の割合は把握していない。国も訪問介護を利用する高齢者のうち、現状維持及び改善に至った方が約8割という見解を出している。本市としても、どのような形で把握できるか今後検討して参りたい。

福田委員：外出支援については、本市は広くバスの本数も少なく、地域によってバス停までも相当距離がある。申請しない方は、バスの利便性が低いことや、行きたくても体の状態が悪くて行けないとか、様々な理由があるはず。バスカ

ードの助成は外出支援事業の第1歩を踏み出したものであると思うが、高齢者の外出支援の要求はすごく高いのではと感じる。

それから、訪問介護の現状及び課題の欄であるが「訪問介護のサービスを受けたことによって現状維持及び改善を図った高齢者が多い、しかし一部では心身機能低下を招いた高齢者もいる」というニュアンスの文章にした方がよいと思う。これを読む限りだと、サービスを受けることが心身の状態悪化につながっているという印象を受けてしまう。

福田委員：施設サービスについて、特養待機者数はどれくらいか。また、施設整備が遅れている状況を説明していただきたい。

事務局：待機者全体では約1,000人であるが、優先して入居できる要介護4、5の高齢者は本市で450人程度。今後5年くらいで待機者は解消できるものと考えている。

福田委員：16年度の実績としては、500名増えているが、施設としては何床増えているのか。

事務局：15～16年度にかけては50床。計画では110床である。

福田委員：計画の半分しか整備されていない状況で、概ね順調とはとてもいえない。国の施策との関係もあるのはわかるが、特養に入りたくても入れなくてとても困っているという声をよく聞く。また、低所得者対策についてであるが、訪問介護利用者の激変緩和対策として利用料の減額などが行われているが、16年度で終了している。その後、これらの方々は利用ができなくなっているのではないか。

事務局：社会福祉法人等利用者負担減免制度は利用できる。16年度の激変緩和策対象者は720名、社福の減免制度対象者は70名弱。今後も利用の促進を図るため、PRを進めていく。

福田委員：社福の減免は実施していない施設もあるから、施設によってはサービスを受けられないところもある。

事務局：今後は事業者への説明会等実施していきたいと考えている。

福田委員：今年度の4～6月の分について、今まで激変緩和対策を受けていた方のサービスの利用率がどのように変化したか、保険料及び利用料を通常どおりに負担しなければならない第2段階の方は、特に利用量が減少していると思うので、次回の会議までに調査の上、お示しいただきたい。

松本委員：ボランティアの観点から高齢者福祉を推進する上で、地域や隣近所のつながりが非常に重要と考える。宇都宮市は地域においてボランティアがたくさん活動している地域と、そうでない地域の差が激しいので、ボランティアが活動しやすい環境や拠点づくりについて支援していただきたい。

崎谷委員：在宅歯科診療の実施についてであるが、実績の数字は延利用人数であり、

実際は 100 人不足の人しか診療していない。現状及び評価の欄に「サービスのニーズは満たしている」という市の見解であるが、歯科医師会の立場から見ると、ニーズを満たしているとは全く言えない。現在でも広報紙などで宣伝はしていただいていると思うが、今後、歯科医師会としても支援・協力する体制にあるので、介護保険の見直しの中で口腔ケアという新しいメニューも導入されてくる背景もふまえて、もう少し積極的に取り組んでいただきたいと考える。

事務局：在宅歯科診療について、申し込みのあった人には 100%対応しているという意味で「ニーズを満たしている」と書かせていただいた。これからは一層の充実を図っていきたい。

高橋委員：胃がん検診の受診率の低さが目立つが、受診者はどのように選定しているのか、その方法について伺いたい。集団検診で専門家による発見が必要。

事務局：検診については、広報紙やホームページ、自治会回覧等で周知している。今後は、健康づくり推進員に声かけ運動を行ってもらう予定である。集団検診は、会場場所や受診人数に限られてしまうので、今年度から土日も検診を受けられるよう設定した。

瀬尾委員：生きがい対応型デイサービスの推進について、事業が急激に進行したため事業の見直しを行ったとあるが、何故このように進行してしまったのかその理由と、どのような課題が生じたのか伺いたい。

事務局：市としては、閉じこもりがちな高齢者と元気な高齢者を一緒に活動させれば、閉じこもりも解消され生きがいづくりにもなるのでは、という考えから事業を進めていった。利用回数を週 3 回までに拡大したことにより、元気な高齢者の利用が増え、更に閉じこもりの高齢者が阻害される施設も出てくるようになってきた。この現状をふまえ、趣味の講座などは老人福祉センター等で受講して満足していただくこととして、介護予防という観点に戻って、利用回数や利用者年齢、実施メニュー、職員の資格要件などについて見直しを行った。

福田委員：ショートステイについてであるが、満床で断られるケースもあると聞く。また、短期入所サービス支援事業の今後の見通しについても伺いたい。

事務局：ショートステイは、利用したい時期が集中する(年末年始・お盆など)ため、ベッド数の確保が難しい。短期入所サービス事業支援策については、今後も続けていくかどうか適宜検討する。

(2) 検討組織の体制について

(事務局説明)

福 田 委 員：公募委員の枠について、以前もっと広げて欲しいという要望を出し、実際増やしていただいたが、まだ少ない気がしている。公募委員の選考方法について伺いたい。

事 務 局：広報紙，HPなどで周知する。選考にあたっては応募の動機について小論文を書いてもらう。保健福祉部長を筆頭とした選考委員会を開いて選考したいと考えている。

福 田 委 員：選考委員は何人か。

事 務 局：概ね7～8名となる。

福 田 委 員：出来れば当分科会の会長や副会長も選考委員のメンバーに入れて頂きたい。

事 務 局：検討させていただきたい。

(3)その他

3. 閉 会